

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者 : 80代 男性 要介護3

利用期間 : 2025年2月頃 ～ 7月現在

経 過 : 心臓弁膜症・ペースメーカー設置

自宅トイレで転倒し体動困難で救急搬送、コロナ感染で入院。治療後に認知力や短期記憶低下、高齢で意欲とADL低下。自宅退院に不安がありショートステイ利用

当初オムツ使用ベッド上生活だった。意欲・ADL共に低下して入居を選択。入居後はユマニチュードケアや職員との関わりを増やす事で、より意欲的になり、リハビリやイベントに参加された結果オムツからトイレ利用へと変わりADLが著しく向上した事例

内 容

週3回、他施設の福祉サービスを利用しながら、ご自宅で奥様と暮らしていましたが、今年1月に自宅で転倒、体を動かすことが難しく救急搬送。その際にコロナ感染も判明し、入院加療となる。

入院中は声かけへの反応が曖昧で転倒リスクが高く、退院後の2月に当ホームショートステイを利用。ショートステイでは、ベッド上で過ごす時間が多く活気のない様子でした。

結果、介護量増加と奥様も高齢であり、今後ご自宅での生活は難しくなる事が考えられ、3月にそのまま本入居となる。

80代後半と高齢であり意欲・ADL共に低下が見られた為、介護・看護・リハビリ・ケアマネジャーが連携するour teamの支援と、介護スタッフの「親身な対応」で、徐々に表情や意欲に前向きな変化が見られた。

ユマニチュードケアの「触れる」「目線を合わせる」「話す」関わりを丁寧に行うことで、安心感と信頼関係が築かれ、ご本人の心も徐々に開かれていき、リハビリへの意欲が聞かれるようになりました。

ご本人のペースに合わせ、「できること」に目を向け、ベッド移乗での立位、車椅子の自操を促すように関わるようにし、アクティビティでは、パンバイキングや音楽クラブへのお誘い、ご要望にお応えしたお寿司の夕食やお花見の外出にご案内して意欲低下を予防。希望されたリハビリでは、杖を使用した歩行練習が始まりました。

our teamで情報共有し、状態に応じた介助を行いパットを装着パットに変更し失禁も夜間1回のみとなり、5月にはトイレでの排泄へ移行され、ズボンの上げ下げを促しADLが大きく向上しました。

今では囲碁をするお友達もでき、入居生活に楽しみを見出し、定期的に来てくださる奥様の面会を心

待ちにされ、穏やかな表情で安心した日々を過ごされています。

今後は奥様との外出など目標を作り意欲が継続できるよう、愛情を持って親身な対応を心掛け、ご入居者のご家族が安心してキラキラした生活が送れるように支援して参ります。

【関わった職員】Our Team 連携

介護(3Fショートステイ)・介護(2F)・看護・リハビリ・ケアマネジャー